

長富範子さん<㈱ファークス 事業推進部エキスパート/薬剤師>、前田玲子さん<㈱ファークス 事業推進部地域連携推進室課長>

# 「服薬支援」を理解する

保険薬局の(株)ファークス 事業推進部のお二人に伺いました



㈱ファークス事業推進部エキスパート/薬剤師の長富さん、長年現場で薬剤師として活躍後、現在は社内薬局の在宅介護医療推進業務を担当している。

11月29日当グループと川崎市宮前区の「かわさき記念病院」「鷲ヶ峯地域包括支援センター」の共催で「お薬」に関するセミナーを開催しました。平日にもかかわらず60人以上の一般の皆さま、医療・介護従業者が集結、「お薬」に関する関心の高さを窺い知ることが出来ました。今回はこのセミナーでもテーマになった「服薬支援」について分かりやすく、保険薬局を全国展開する株式会社ファークス事業推進部のエキスパート/薬剤師の長富さん、地域連携推進課の前田課長にお話を伺いました。

Q:ここ数年、「服薬支援」という言葉が医療・介護従業者の周りでしきりに話題になるようになりました。先日のセミナーでも「服薬支援グッズ」に注目が集まりました。

前田:どんなに劇的な新薬が開発されてもちゃんと服用されなければ何の効果もありません。患者様の規則正しい服薬をサポートすることが重要、ということです。昨今「服薬支援ロボット」の登場やAIの活用等、テクノロジーの分野が注目を集めていますが、「タブレット」や「薬の一包化」、「配合剤<複数の薬効成分を一つの薬の中に配合した医薬品>」の開発等も全て「服薬支援」に通じます。

Q:ここまで「服薬支援」が声高に叫ばれ、注目されるのは?

長富:いくつかの要因があります、特に「残薬」の問題がメディアによってクローズアップされてきたことも大きな要因です。具体的には「薬の飲み忘れ」や「飲み残し」という事です。何らかの理由で自宅にためこむ、いわゆる「残薬」の量は、年間500億円とも言われています、保険財政上の問題以外に、正しく服用されていないことで、薬効や健康に影響が出ることが懸念されているのです。

Q:グループホームに入居される前、ご家族が高齢者のお宅を掃除すると、大量の「残薬」が出てきた、というのはよくある話です。やはり在宅での特有な課題ということになりますね?

前田:ある統計によると高齢者の服薬不遵守は25%、それが認知症患者(軽度から中等度の障害)ではその2倍以上の55%になることが報告されています、周りに介護者がいる場合はまだしも「独居」や「老老介護」の場合いかに服薬アドヒアランスを高めるかが課題です。

Q:施設に入居し規則正しい服薬により、しばらくすると元気になれる方もいらっしゃる。しかし多種の薬を日に何度も規則正しく飲んでいただくのは、施設職員でも工夫が必要な業務です。

長富:調査によると「認知症」「高血圧」「糖尿病」などの慢性疾患で長期処方される場合に残薬が多い一方、薬の種類が多いほど、残薬が発生する割合は増加するとも言われています。そして「残薬」が出る理由も実は様々です。まずは服薬が困難になること「運動機能障害」<筋力の低下や指先の器用さ>「摂食・嚥下障害」<咀嚼力・飲み込み>、そして「管理能力の低下」<物忘れや認知症>。他には「自己判断による服薬中止や減量」などで、理由は患者様によりまちまちです。しかし医師の「お薬はちゃんと飲んでますね?」という問いに「いいえ」と答える方は少ないのも現実です。

Q:なるほど~「服薬支援グッズ」だけの問題ではありませんね。

前田:そうなのです。「残薬」が出る原因を特定するには、やはり専門家<医師・薬剤師・ケアマネジャー等>がその方の生活環境までに入り込まないとなかなか解決の糸口を見つけられません。特に「管理能力」の低下に起因する場合は非常にデリケートです。薬の置き場所を変えるだけで解決する場合もあれば、促しの電話を入れても解決しない場合もある。

Q:さて、何か解決方法や改善に向けての方法はあるのでしょうか?

長富:まずホームドクターと同じ位置づけで「かかりつけ薬局や薬剤師」を活用することです。これによりかかりつけ薬剤師がひとりの患者様の服薬状況をまとめて管理することやポリファーマシー<多剤服用で害をなすもの>を防げます。更に踏み込んで薬剤の飲み忘れを防ぎ、患者様に確実に薬を飲んでもらうためには、薬剤師の「居宅療養管理指導」が重要になると考えられます。それは、医師の指示を受け、薬剤師が患者様宅に訪問し処方されている薬の管理方法や服薬指導・アドヴァイス等をするもので、併せて服用状況や「残薬」が出る原因を特定することに繋がります。しかし、確実なのは家人や介護者、薬剤師が毎回、薬を飲むところを確認することですが、これは不可能です、それこそ「ロボット」やAI技術の応用が期待されることです。



㈱ファークス事業推進部地域連携推進室課長の前田さん、現場でケアマネジャーとして活躍後、薬局(居宅介護支援事業所)の運営管理を担当している。



終演語の服薬支援グッズコーナーには沢山の方が



11月29日の「お薬」のセミナーには多くの方が集まりました。



(上)カイ工学が開発したコミュニケーションロボット「BOCCO」、セルム㈱がインターネット経由で定期的な挨拶や服薬の促し等の声かけを行なう。(左上)エーザ㈱が開発した服薬支援ロボット「eお薬さん」は離れた場所からも患者の服薬状況を確認できる。

(上)今では当たり前の「薬の一包化」、これも医師の指示が必要。自分の飲む薬を数えられないような高齢の人などは一包化してもらおうと安心。(右上)手の届かないところに軟膏を塗ったり膏薬を貼る便利グッズ。(右)古典的なタブレットも服薬支援グッズ。ピルボックスやカプセル式のお薬ケースもある。



川崎市幸区のグループホーム「第2バナナ園」より

## 師走第2週の恒例行事

川崎市幸区のグループホーム「第2バナナ園」では師走12月の第2土曜日は定例のイベントを実施します。そう、この日はクリスマスツリーの飾り付けをする日なのです。今年は12月14日、朝からスタッフが施設の倉庫から「組み立て式(笑)のミの木」と大きな段ボール箱に入った「クリスマスツリー」を用意します、オナメントは毎年手作りのものが増えていくのでずいぶんな量になりました。さあ、お昼ご飯を食べ終えると飾り付けの開始です！ゴージャスな星飾りや繊細なガラスのボールなど、見ているだけで楽しいクリスマスツリーですが、セシ良く飾り付けをするのは意外と難しいですよ。若いスタッフが数人で手分けして飾ればあっという間に終わってしまう作業ですが、高齢者が細い糸に吊るされたオナメントを一つ一つ丁寧に枝に結んでいくのは時間もかかりますが指先を上手に使うリハビリテーションにもなるのです。皆様段ボール箱の中から「玉飾り」や「靴下」「雪の結晶」思い思いのオナメントを取り出し、ミの木に結び付けていきます。何故か「短冊」をミの木に結んでいるM様に「Mさん、そりゃ違うよ七夕飾りだよ!!」とK様、どうやら七夕飾りの短冊がクリスマスツリーのオナメントの中に混じっていたようで一同大笑くちなみに「第2バナナ園」では7月1日は七夕飾りの日に決められています。そして昨年同様うんちく好きのK様「クリスマスはヨーロッパをはじめ、世界中で常緑針葉樹のミの木が使われているのじゃ。常緑樹は冬でも葉が枯れて落ちない、一年中緑色を保っており緑の葉を失わない常緑樹は特別な力があると考えられているのじゃよ!西洋ゲン担ぎだな!ワッハハ!!」。最後に電飾を飾り「トップスター」をミの木のてっぺんに付けるとクリスマスツリーの完成です。この日のおやつはショートケーキで早くもクリスマス気分。施設管理者の雛形は「毎年クリスマスや七夕に限らず季節のイベントは準備段階からご入居者に参加をしていただいています、季節を感じていただくだけでなく、非日常の演出とリハビリを兼ねてです。もちろんおかたずけもお願いするのですよ(笑)」と語ってくれました。



クリスマスツリーの何気ない飾り付けも細かい作業は高齢者にとっては簡単ではない。作業療法にも通じる立派なリハビリテーションになるのです。

川崎市中原区のグループホーム「のんびり〜す」より

## 蕎麦打ちの会開催

川崎市中原区のグループホーム「のんびり〜す」では、この秋は食のイベント盛り沢山。10月1日には、謎のボランティア集団「蕎麦打ち名人」による「蕎麦打ちの会」が開催されました。この日は朝から蕎麦を打つための大きな道具が運び込まれ、入居者様は何かが始まるのかと興味津々！蕎麦打ち軍団は手際良く準備をすすめます。そしてまずはそして「蕎麦打ち名人」のそばに於いての蒞臨披露から始まり、それが終わるといよいよ蕎麦打ちがはじまります、今回は名人が「幻のそば粉」と言われる「北海道・幌加内産」を手配・使用。この日は特別に「蕎麦打ち」「蕎麦切り」を入居者様が体験、まずはエプロン姿に変身。つきたてのそば粉を延ばし、大包丁で切っていただきます。「いやあ〜ドキドキするわ、上手く切れるかしら？」と元主婦85歳のSさま。不安を口にするも見事な包丁さばきで、細くてきれいなおそばが一丁あがり！満面の笑みを浮かべるSさま。「こんなことが体験できるなんて嬉しいばかりです。」と感激の様子。そんな光景を見ていたKさまにもお誘いのお声が。いざ割烹着に着替えると、さすが昔取った杵柄、お似合いでカワイ！Kさまの姿に職員もちょっと感動。ゆっくりと、力強く包丁でそばを切っていく姿はさすがに元主婦。切り終わると皆さんからグエーラの技に拍手喝采。Kさん無言ながらも照れ笑いそして、蕎麦が茹で上がる間に、そば打ち軍団のメンバーが「腹話術」と「トランペット演奏」を披露して頂き大盛り上がりでした。そして、昼食はお楽しみ、打ち立て、茹でたての鴨そばを全員でいただきます。蕎麦の前には蕎麦がきも振る舞っていただき、おかわりが出る程の大盛況。そして待ちに待った蕎麦が茹で上がり綺麗に切り分けた鴨肉をのせた温かい鴨蕎麦が来上がりました。先程蕎麦がきをいただいたのに、今度は蕎麦をツツル、皆さんは別腹ぶりを披露(笑)。普段少食の入居者様もこの日ばかりはおかわりをされ「打ちたての蕎麦は美味しいね〜」と夢中になって召し上がっていました。施設管理者の熊田は「この施設では様々なイベントを企画します、施設運営では、平穩無事を一義的に考えなければならないなか、如何に＜非日常＞を演出できるかが課題なのです。そのためスタッフには常にアイデアを出してもらっています。お陰で入居者様・ご家族、そしてスタッフ皆が楽しいひと時を過ごすことが出来るのです。スタッフはもうお正月の構想を練っているようです。」と語ってくれた。



蕎麦打ち体験にトランペット演奏、腹話術と芸達者な蕎麦打ち軍団のお陰でこの日は「非日常」の演出が!!でも一番は美味しい「お蕎麦」を食べることに尽きますね!!



### バナナ園グループで働きステップ・アップをしませんか？ 介護スタッフ募集中

★介護はアイデア～未経験だからこそそのアイデアが必要です!

#### ■募集要項

★職種:ケア・スタッフ<①正社員/②非常勤職員>★無資格・未経験からスタート/年齢不問

★給与:① 月給:213,000円～<18歳資格なし夜勤5日含む>

② 時給 1020<無資格>～1170円<介護福祉士>

※夜勤1回 18,000～20,000円<介護福祉士>①②処遇改善加算交付金含

★時間:9:00～17:00 17:00～翌9:00

★待遇:社保・有休・交通費規定内支給:月額50,000円迄

★勤務場所:当社各施設10箇所の中から通勤し易い場所を選べます。

●問合せ:(株)アイ・ディ・エス 採用担当まで

☎044-455-6117

2020年3月新卒社員募集中

会社説明会随時開催中

エントリーはこちらから→



## バナナ園グループ

【グループホーム】

- 川崎大師バナナ園 ☎044-280-2386 ●第2バナナ園 ☎044-587-1773
- バナナ園武蔵小杉 ☎044-863-7101 ●バナナ園ほりうち家 ☎044-722-5361
- のんびり〜す等々力 ☎044-750-9203 ●のんびり〜す ☎044-422-2295
- バナナ園生田ヒルズ ☎044-911-1599 ●バナナ園生田の杜 ☎044-789-5691/5692
- バナナ園生田の泉 ☎044-789-5693 ●バナナ園横浜山手 ☎045-264-9634



## グループホーム空室情報

空室情報、入居に関するお問い合わせは右記の各施設もしくは総合案内

044-455-6119



月刊 MONTHLY BANANA NEWS (毎月1日発行)

通算第181号 編集:株式会社アイ・ディ・エス

川崎市中原区新丸子町734-2 ☎044-455-6119

<HP> <http://www.bananaen.com/>